



ナイス福岡 会報

くすのき

2026年01月

第 **366**

号

新しい年を迎えた会報です。



○ まだまだ冬枯れの森の中で、赤い梅の花が春を告げています。元気な小鳥たちは

混群になって、そんな森を飛び回っています。 aiko.

都市公園で自然観察会 県立春日公園での自然観察会(167回)

日時：2026年01月17日(土)10時から12時まで

集合場所：公園の中央付近にある自然あそび館

春日公園初冬の風景 2026年1/6 撮影:田字草



「問い合わせ先」 担当: 田村耕作 Tel 090-8220-6160(田村)

参加費 会員200円 一般 300円 生きものに関心のある方ならどなたでも

注意 各団体とも、様々な状況により、下記の予定も当日でも変更になることがあります。**詳しくは各団体にお問い合わせください。**

日本野鳥の会 福岡支部 主催

※一般参加費：300円（中学生以下無料） 問合せ先090-8220-6160（田村耕作）

1月18日（日）2月15日（日） 天拝山探鳥会（筑紫野市） 時 間：9:00～12:00 集 合：天拝山歴史自然公園	1月25日（日）2月22日（日） 久末ダム探鳥会（福津市） 時 間 9:00～12:00 集 合：久末ダム多目的広場横駐車場	2月1日（日）3月1日（日） 今津探鳥会（福岡市西区） 時 間：9:00～12:00 集 合：玄洋高校西側道路
2月14日（土）3月14日（土） 大濠公園（福岡市） 時 間：9:00～12:00 集 合：ボート乗り場前	2月8日（日）3月8日（日） 和白海岸探鳥会（福岡市東区） 時 間：9:00～12:00 集 合：JR 和白駅前の公園	2月3日（火）3月3日（火） 県営春日公園（春日市） 時 間：10:00～12:00 集 合：音楽堂ステージ側（第5P）

三国丘陵の自然を楽しむ会 主催

<http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/>

2月7日（第1土曜日） 集 合：九州歴史資料館 第一駐車場 時 間：9:30～11:30 問合せ：092-920-3072（松永） コロナ対策：ブログにて確認 ブログ「三国丘陵の自然を楽しむ会」で 検索
--

福岡植物友の会

詳細はお問合せください。
中小路 香（092-864-7585）
1/18（日）総会 研究発表
会場：福岡市西市民センター

日本野鳥の会 筑後支部

1月25日（日）
久留米城址（久留米市）
時 間：9:00～12:00
集 合：山先の河川敷駐車場
問合せ：090-4357-3043（溝田泰博）

久留米の自然を守る会

2026年2月14日（土）
総 会：13:30～
講演会：14:00～15:00
場 所：くるめウス会議室
問合せ：0942-43-7959（河内俊英）

和白干潟を守る会

1月24日（土）
定例会議
時 間：12:00～14:00
集 合：和白干潟を守る会事務所
問合せ：092-606-0012（山本廣子）

1月24日（土）
クリーン作戦 と自然観察会
時 間：15:00～17:00
集 合：海の広場 駐車場なし
長靴・軍手があると便利
問合せ：090-1346-0460（田辺）

ルリビタキ 三国・松永

マンリョウ・ヒヨドリ 三国・松永

三国丘陵の自然を楽しむ会、観察の様子

2025年12月 私のデジカメ日誌より

12月1日(旧暦10月12日) ~12月31日(旧暦11月12日) までの
デジカメ日誌です。(文・写真 本のむし)

本のむし

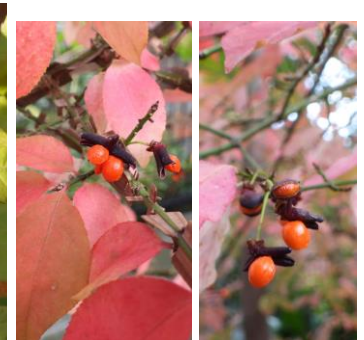


12/2(旧 10/13)筑紫野市天拝坂 先月まだ青かったアラカシのドングリが、しっかり色づいてきた。今年もアオバトが来るかな？

12/3(旧 10/14)筑紫野市天拝坂 クイツという声に目の前のケーブルにツグミが3羽。この後、見ないので南下の途中か？

12/4(旧 10/15)筑紫野市天拝坂 サルスベリの実にカワラヒワの群れ。三列風切の白斑が幅広い。冬鳥のオオカワラヒワか？

12/6(旧 10/17)太宰府市鷺田川 ハクセキレイの全身水浴。よく見ると、頭も水中だが、目はしっかり上を見ていた。用心深い。



12/6(旧 10/17)太宰府市鷺田川 コガモ、オスはピツとかピュツという可愛い声で鳴く。筑紫野では良く観られるので冬が楽しい。

12/6(旧 10/17)太宰府市鷺田川 冬鳥マガモのつがい。と今まで言い切って説明してきた。多分だけど... アヒルよりスッキリ。

12/9(旧 10/20)筑紫野市天拝坂 ヤブコウジ、十両である。今年は暑い日が遅くまで続いたので、葉が焼けている。

12/10(旧 10/21)筑紫野市天拝坂 枝に翼がある左がニシキギ、翼がなく、冬にも緑色の枝色の右がコマユミである。よく似ている。

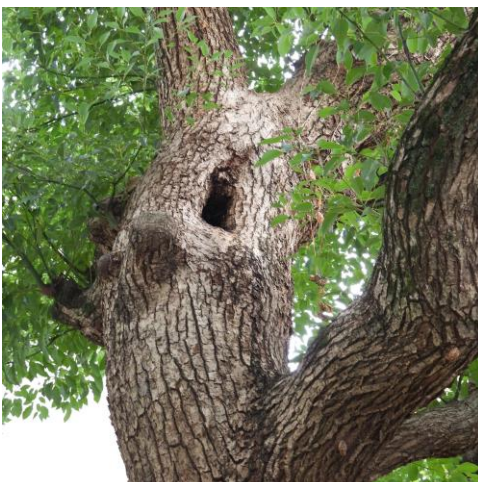


12/10(旧 10/21)筑紫野市天拝坂 頭上いっぱい带状縞雲が広がっていた。57年前の豊旗雲論争で、この雲が豊旗雲らしい。

12/13(旧 10/24)筑紫野市天拝坂 庭からコツコツという小さな音。コゲラだ。この時、メジロ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、ヤマガラなどの混軍だった。

12/14(旧 10/25)福岡市薬院新川 はじめスズガモかと思ったが、後頭部にわずかに冠羽がみえる。キンクロハジロのメスだ。

12/14(旧 10/25)福岡市薬院新川 ホシハジロが河岸の藻をこそいったり、頭だけ水中に入れ何かを食べている。潜らない事もある...



12/16(旧 10/27)福岡市中央区春吉 建立寺のクスノキ 樹幹3m以下だと思うが、本堂とマッチしてなかなか良い樹だ。最近この洞があるのに気付いた。アオバズクが似合うと思うけれど...



12/21(旧 11/2)福岡市東区 崇福寺のカリンがたわわに実り、樹下に沢山落ちている。誰も実を拾わない世界はなんか寂しい。



12/21(旧 11/2)福岡市東区 長性禅寺の菩提樹の黄葉。栄西が中国から持ち帰ったコパノシナノキ。インドの菩提樹は別種。

春日公園自然観察会 令和7年12月20日(土)【参加者】6人【担当】、田村耕作

観察は、自然あそび館～芝生広場・調整池を巡り～自然風庭園を経て自然あそび館にもどった。

観察内容 晴れ、14℃で開始。終了時は20℃でした。暑さを感じた冬の日でした。

いろいろな生きものを観察した中で、主な種類を示します。

植物 ソメイヨシノ、ナワシログミ、ハマヒサカキ、アキニレ、ヤブムラサキ、トウネズミモチ、マンリョウ、アカメガシワ(冬芽)、サザンカ(花の蜜)、ホルトノキ、ヒマラヤスギ、ユズリハ(実)、ヒメユズリハ、ラクウショウ、メタセコイア、スズカケノキ、イチョウ、イヌマキの実、クヌギ、コナラ、ウバメガシ、アラカシ、スダジイ、マテバシイ、サカキカズラ、タイワンフウ、モミジバフウ。

昆虫 ツチイナゴ

野鳥 モズ、スズメ、メジロ、コゲラ、ヤマガラ、ウグイス、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジバト、シジュウカラ、ムクドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アトリ、カワラヒワ、アオサギ、シロハラ、マガモ、アヒル、カワラバト。

感想(参加者、その場の声)

- ・ナワシログミの芽生え、幼木を観察、種を鳥が運んだのか。近くに実を付けるようなナワシログミは見つからず。
- ・ハマヒサカキの幼木を見つけ、近くで親木の雄株と雌株を見つけた。雄株の花、雌株に実、その成長中の実、咲き始めた花を観察。この場所でハマヒサカキの雄花、雌花、実を一度に観察できたことに満足した。
- ・冬の訪れとともに木々が葉を落とし寂しくなった林の中に落ち葉にうずもれるように可愛い木々の幼木が、あちこちにあることを気づかせていただきました。イチョウの幼木が探せなかったことがちょっぴり残念でした。身の回りの何気ない自然に目を向ける大切さを改めて感じました。城間規子

- ・クロガネモチ、ユズリハ、クスの木など、様々な樹木の実が、見られました。原桂子

観察会開始



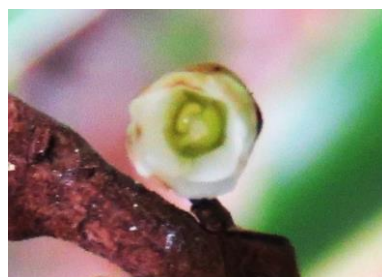
ナワシログミの幼木



ハマヒサカキの幼木



ハマヒサカキの雄花



ハマヒサカキの雌花



ハマヒサカキの実

ツチイナゴ(成虫)



撮影：田村耕作

以上

会員からの投稿（1） 岩井結友美

「この子、どこから来たの？」 春日公園にて

～冬の森で出会う、命の旅の物語～

冬の静かな春日公園。木の葉が落ちて地面に陽が差し込むこの時期、足元をじっと見つめてみると……。そこには、生まれたばかりの小さな「新芽」たちが、元気に顔を出していました。



🐦 空飛ぶ運び屋たちがつなぐ「命の旅」

不思議なことに、その芽の周りを見渡しても、親となる大きな木は見当たりません。「きみは一体、どうやってここまで辿り着いたの？」野鳥たちが「運び屋さん」。

赤い実を食べて、遠くへ種を運ぶヒヨドリ。「あとで食べよう」と土にどんぐりを隠すヤマガラやカラス。大きな木は、鳥たちにとって絶好の休憩所です。鳥が実を食べてここで一休み(糞)をすることで、遠い場所から運ばれてきます。鳥たちが種というバトンを受け取り、森の未来を広げる旅を支えているのですね。

🌞 大木が差し出す「特等席」の秘密

さらに面白いのは、芽が出ている「場所」の環境です。そこには、厳しい冬を乗り越えるための仕組みが整っています。

大木の湯たんぽ：巨大な幹は、日中の太陽の熱をじっくりと蓄えています。それが夜間の急激な冷え込みを和らげる「湯たんぽ」のような効果を発揮し、小さな芽を凍結から守ってくれます。

樹幹流(じゅかんりゅう)：雨が降ると大木の幹を伝って、お水と栄養が根元にトククと集まります。大きな木が差し出す「天然のじょうろ」です。

落ち葉の毛布：地面を覆う厚い落ち葉は、冬の寒さや乾燥から小さな命を守る「天然のシェルター」。ふかふかの毛布に包まれるようにして、芽は根を伸ばします。

親の違う小さな芽たちにとって、ここは大きな木が用意してくれた、一番安心できる場所なのですね。

🌱 静かな冬、見えないところで繋がる命

11月の投稿で、植物は「日光の時間」というブレない軸を持って生きているとお話しました。冬の寒さの中で芽吹く彼らもまた、自分の中の時計を信じて、春の成長に向けてじっと準備を整えています。

一見バラバラに見える自然の景色も、実は鳥や雨、そして大木たちが手を取り合って作った「見えないネットワーク」で繋がっていることがわかります。私たちの毎日も同じかもしれません。今、目の前にある喜びは、誰かがどこかで運んでくれた種が、誰かの優しさに支えられて芽吹いたものかもしれません。

春日公園の小さな芽生えに、そんな「繋がり」の温かさを教えてもらいました。冬の寒さの中で、確かな未来を見つめる彼らの姿に、改めて感謝です🌟

会員からの投稿（2） 橋川夫妻の我が家の自然観察日記

— カツラ —

雌雄異株の落葉高木。福岡県内の山地でも点々と見られます。

我が家には40年生くらいの雌木があり15メートルほどに育っています。

11月頃には落葉の香ばしく甘い香りが漂います。そして12月になりすっかり葉を落としました。

果実は先端がとがった円筒形の袋果で1センチメートルほどの長さ、中にはカエデ類の形に似た翼のある長さ4ミリメートルほどの種子があり風で散布されます。そのため庭ではしばしばカツラの実生が見つかります。

写真1 落葉前のきれいな色合いの幼木の葉（2025年12月18日）

写真2 成木は黄葉だが幼木は赤く紅葉（2023年11月15日）

写真3 果実は枝に数個ずつ房状につく（2025年12月23日）

写真4 翼をつけた種子（2025年12月23日）

写真5 落葉後の樹形

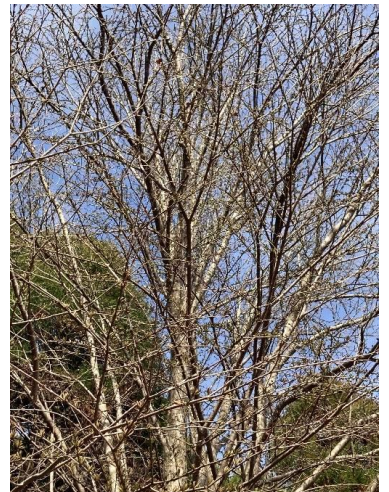


写真1

写真2

写真3

写真4

写真5

会員からの投稿 (3) 秋山芽生子 博多湾の東部を中心に活動中

皆さん、博多湾でたくさんの生きものと触れ合いませんか。



立花山と博多湾東部和白・雁ノ巣



紅葉したハマボウ



干潟で休息するミヤコドリなど



ゆったり気分かなマガモたち



ヨシガモ 冬羽に移行中



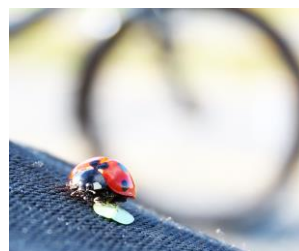
ハマシギ 採食中



ハジロカイツブリ



ミサゴ、岩礁で休息かな



テントウムシ

会費振込について

会計年度は6月から翌年5月末までです。会員の皆様、2025年度会費を、各自ご確認の上、郵便局にて下記の郵便振替口座に振り込みをお願いいたします。

年会費:2000円 郵便振替口座:福岡県自然観察指導員連絡協議会 01760-9-15783

定例会

次回の定例会は、**令和8年2月13日(金)午後2時**より事務局で行います。令和8年2月号の原稿は、2/10(火)までに届くようにお願いします。なお、原稿を掲載するに当たっては編集担当にお任せ願います。

編集後記 2025年12月の定例発送会は、藤川渡と田村耕作が、それぞれの自宅で作業。

新年あけましておめでとうございます。

初日の出、天気予報では曇りとあり、拝めれば幸運かなと思い、7時15分の始発に乗船。

能古島港には25分着。東の空は、ほとんどの雲が消え、茜色の空、気温5℃。見事な状況を体験できました。その後、白髭神社に初詣。

ゆったりとした時が流れました。

今年もよろしくお願いいたします。

ゆったり気分で、活動を継続したいと思います。

初日の出 1/1 能古島から福岡タワー付近望む

撮影: 田字草

